

【海外留学レポート】

## 北京留学体験記

### -今こそ中国に留学しよう-

#### My Experience as a Foreign Student in Beijing, China

東京外国語大学国際社会学部 4年 三浦 知佳

MIURA Chika

(Tokyo University of Foreign Studies)

キーワード：中国、海外留学

#### はじめに

私は、東京外国語大学国際社会学部4年の三浦知佳と申します。大学3年時に中国の北京大学で約1年間派遣留学の機会を頂きました。これから留学を考えている方は、英語力を向上させる為にアメリカやカナダ、または憧れのヨーロッパで素敵な留學生活を送りたいと思っている人が多いかもしれません。欧米諸国はいつの時代もやはり魅力的ですよね。留學相談会にスピーカーとして参加させて頂いた際、アメリカやカナダのブースには長蛇の列が出来ているにも関わらず、私の所に中国の話聞きに来てくださる方は片手で数えられる程でした。

ここで、最近の中国を少し紹介します。中国の大都市では、キャッシュレス化が徹底されています。デパートから小さな屋台まで、スマートフォンの画面をかざして決済をしており、紙のお金を持ち歩いている人はほぼいません。現金で支払いをしている人は観光客だとすぐに気づかれます。最近では店員さんを置かない無人コンビニも話題になりました。また、街の至る所にレンタサイクルがあり、乗り終えた後に元の場所に返す必要がないので、環境にも優しく、近い移動の際にはとても便利です。そして何より、中国の出前には感動を覚えました。家から出なくても、アプリ1つで、レストランで食べられる物なら何でも(!)家まですぐに配達してくれます。中国の出前のバリエーションとスピードには本当に驚かされました。このように、中国は多くの日本人のイメージとは異なり、意外にも東京よりも進んでいると思うことが多いです。最近の中国は中々スマートです。他には、海外の映画は日本よりも半年以上先に中国で上映します。中国にいと海外の映画を早めに見ることができます。

日本と中国は古くからの隣国であり、切っても切れない関係にあります。4千年の歴史を持つ、お隣の経済大国のを知ることはとても有意義なことだと私は思います。私の文章を読んで、1人でも多くの方に、「中国も中々悪くないな」、「中国留学を選択肢に入れてみてもいいかな」、「中国語を勉強してみよう」と思って頂けたら、これ以上嬉しいことはありません。

## 留学の動機

私は大学で中国語を専攻しています。大学で毎日中国語の授業を受けていたら、2年間で一通りの文法を習得出来ますし、ある程度中国語で意思疎通ができるようになります。留学に行かなくても、4年間大学で真面目に勉強したら、中国語のドラマを字幕がなくても理解することができるし、自分が伝えたいことは問題なく伝えられるようになると思います。日本国内にも中国人はたくさんいるし、日本国内にいても中国語の勉強は十分にできると思います。

それでも私が強調したいのは、言葉は生き物だということです。その言語が母語として話されている国に実際に行き、文化を知り、歴史を学び、頭からつま先まで全身でその国を感じてこそ、その言語が生きてくると思います。日本にもたくさん中国人はいますが、彼らの多くは、少しでも日本に興味がある方や、日本に理解がある方達であり、中国13億人のほんの一部分に過ぎません。私は留学に行き、その国に実際に行って、彼らの習慣、物の見方や価値観を学ぶことが非常に大切だと身を持って経験してきました。

当時の私は「中国人になること」を目標として定めていました。国籍を変えるとかそういう話ではなくて、心から中国人を理解し、中国人に寄り添える存在になりたかった。自分が話す表面的な中国語に命を吹き込み、説得力を持たせたかった。そして自分から日本人だと言うまでは、日本人だと気づかれないまでに、中国語能力を上達させたいと思いました。それにはやはり中国に1年間行くしかないと思い、留学を決意しました。

## 学校選び

中国は広いです。国土は日本の約26倍だそうです。以前ほどではありませんが、地方によって方言やアクセントも異なるので、どこを留学先に選ぶべきか悩みますよね。私も留学に行く前はよく「標準的な発音を身に付けたいのなら北京で留学した方が良い。」「南の方は訛っているから、北のほうが良い。」と聞いて悩みましたが、正直そんなこともありません。今大都市(北京・上海・広州等)には中国の全国各地から人が集まっているので、どこも大きくは変わらないと思います。現在の若者は皆さん標準的な中国語を話すので、留学先を選ぶ際に、(よほど田舎に行かない限り)方言やアクセントの違いで悩む必要はないと思います。それよりも、以下のような基準で選ぶことをお勧めします。①天候：北京は11月半ばからものすごく寒く、空気が乾燥します。寮の暖房は頼りなく、毎日ガタガタ震

えていました(北海道出身)。寒さに弱い人には北の地域はお勧めしません。②日本人留学生の多さ：北京、上海といった超大都市は、言うまでもなく日本人留学生がたくさんいますが、その分様々な出会いやチャンスもあります。北京や上海には日本人会が多数あり、日本から来ている学生から様々な業種の人と交流できる機会が多くあり、とても勉強になります。しかし、自分の意志が弱いと、気が付いたら毎日日本語ばかり話している、なんてことにもなりかねません。同じ大都市でも廈門や広州、南京、成都、重慶等は日本人留学生が少なく、その分日本語を話す機会もないので、どっぷりと中国語に浸ることが出来ます。③中国人学生のレベル：私が北京大学を選んだ理由の一つが「今後の中国を引っ張っていく人材になり得る、全国各地から集まる優秀な学生達と一緒に勉強し、彼らから刺激を受け、多くのことを学びたい。」でした。自分がどのような学生達と交流したいのか、大学のレベルや自分の専攻と照らし合わせて、大学選びをするのも一つかもしれません。私の大学は文系学生の集まりだったので、総合大学に留学をして、様々な領域を専攻している学生と交流したいという希望もありました。(他には、歴史が好きだから西安に行くとか、海鮮が好きだから青島や大連に行くとか、中国の北の男性は亭主関白で、南の男性は優しいとか、四川の女性は美しいとか、そんな理由でも良いのかもしれません。最終的にどこに行っても楽しめる人は楽しめるし、不満を言う人はどこに行っても不満を言いますよね。)

### 留学生活～勉強編

中国留学には主に二種類あると思います。一つは中国で「中国語を勉強する」パターンです。自分の中国語レベルに応じてクラスに分けられ、他の国から来た留学生と一緒に中国語を勉強します。もう一つは、「中国語で勉強する」パターンです。これは留学前に既にHSK(中国語の検定試験)6級ないしは5級の条件を満たしており、中国人学生と共に学部の授業を受けます。私は後者の中国語で学部の授業に参加する留学形式を選択したので、主にそちらの留学生活について説明します。

私が履修した主な授業は、外国語学部の日中翻訳・通訳の授業、中文系の中国文学・歴史・文化の授業、国際関係学部の日中関係や、中台関係、中国外交等の授業です。言うまでもなく、留学当初は授業中の中国語が半分くらいしか聞き取ることが出来ず、毎日授業に行くのが嫌で仕方ありませんでした。いつ先生に当てられるか終始びくびくし、先生が面白いことを言って学生達が笑っている時も、何が面白いのか全く分からず、それでも一応怪しまれないように合わせて笑っていました。それでも不思議なことに、毎日授業をスマートフォンで全て録音し、寮に帰ってから聞き直す、中国語の新聞を毎日欠かさず読む、恥を忍んで分からなかったところを隣の学生に逐一聞くということを地道に続けていると、この地獄の様な日々は3ヶ月くらいで去っていきました。徐々に聞き取れる中国語が増え、後期には積極的に授業に参加できるようになっていました。試験前には授業中にできた友人がノートを全てコピーしてくれ、前日は学校近くのカフェで夜中の2時まで勉強に付き合ってくれました。

人間追いつめられると、何でも出来るのだとその時に感じました。

そして、北京大学生の学問に対する姿勢には驚かされました。図書館の席は日々取り合い、21時半まで授業を受け、さらに自習をし、寮には寝に帰るだけという学生も少なくありません。一見修行のような生活に見えるかもしれませんが、しかし、彼らは日頃から、国際事情や中国の文学・歴史・経済について本当に楽しそうに話をするから、気が付くと自分も彼らと一緒に勉強をするようになっていました。彼らと話をしていると知的好奇心が刺激され、今まで日本の大学生活における、圧倒的に少ない自分の学習量を恥じると同時に、本来勉強というものは、自ら知識を求めて主体的に行う、苦しくも楽しい作業なのだ気づかされました。彼らは、自分が北京大学の学生であることを誇りに思っていたし、北京大学の名に恥じないように日々努力をしていました。その姿が私にはとても美しく見えました。

### 留学生活～日常編

上の勉強編を読むと、とんでもなく苦しい留学生活だったように見えますが、決してそんなことはありません。まず、私は留学生寮に一年間住んでいました。1つの個室を2人で使用し、バストイレと共用スペースを4人で使用していました。ルームメイトは中国育ちの韓国人が2人と中国系ドイツ人だったので、日常会話が全て中国語でとても練習になりました。長期休暇の際にはルームメイトの韓国の実家にもお邪魔させて頂きました。北京大学は勉強以外に、課外活動も非常に盛んです。日本の大学に負けないうくらい様々なサークルがあり、もちろん留学生も自分の興味にあった活動に参加することができます。私は中国の伝統楽器である二胡サークルに加入し、週に2日間の活動に参加していました。北京大学には日中交流会があり、日本語を学びたい学生が数多くいます。交流会では日本人留学生よりも、日本に興味がある中国人学生の数の方が圧倒的に多いので、容易に友達を作ることができます。また、登録をすると言語交換のパートナーを付けてくれ、授業以外でも中国語を勉強することができます。その他、北京大学では講演会や行事もたくさん行われています。外国の大統領、中国の有名政治家や起業家が大学へ来て講演会を行います。(去年はなんとビルゲイツが来たそうです!) 行事も、カラオケ大会やスポーツ大会、留学生文化祭等、実に様々な活動があり、充実した飽きることのない留学生活を送ることができました。

### 最後に

冒頭でも述べましたが、今、中国を知る・中国語を勉強することは、とても面白いし、意義があることだと思います。都心では、一回出かけるだけで数人の中国人に会えるほど、多くの中国人が生活しています。人口2万人ほどの地元の小さな町に帰省した際にも、町中に中国人が歩いていてびっくりしました。さらに、日本だけではなく、人がいるところには中国人がいると言っても良いほど、世



界中に中国人や華人がいます。もし中国語が話せたら、世界中にいる中国人とコミュニケーションが取れるようになり、非常に便利です。また、ビジネスや国際関係を語る上で、今や中国は欠かせない存在となっています。その為、就職活動や仕事をする上で中国語が話せる、中国人を理解できる人材は非常に重要視されます。他の外国語も同じだと思いますが、中国語は特にあなたの人生に役立つし、中国語に助けられることがあると思います。

最後に、「留学は福袋のようなものである」とよく言われます。どれだけ事前に情報を集めても、どのような留学生活があなたを待ち受けているのかは、実際に行ってみないと分かりません。留学生活に正解はないと思います。行ってみたら、案外どうとでもなりますよ。あまり深く悩まず、躊躇わず、とにかく留学に向けて一歩踏み出してみてください。



(写真) 留学先にて 友人と共に